

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	光明第七こども園
活動日時	2026.2. 5
クラス（年齢）	心組（2歳児）輝組（1歳児）純組（0歳児）
年間テーマ	自然

1. 活動テーマ

《テーマ》

かんなくすプールで遊ぼう2

《テーマの設定理由》

日常の保育の中で自然素材に触れる経験を大切にしており、その中でも「みんなのもり」は、子どもたちが安心して関わりを深められる身近な自然環境である。木々や土、葉や木端など、五感を通して感じられる自然は、年齢の低い子どもにとっても主体的な遊びや発見につながりやすい。

また、同じ自然や素材に繰り返し触れる「再体験」は、子どもの気づきや理解を深める重要な機会であると考えている。一度経験したことを、季節や成長の変化とともに再び味わうことで、「前と違う」「こうしてみたい」といった新たな反応や遊び方が生まれる。

そこで本テーマでは、自然との継続的な関わりと再体験を大切にしながら、子ども一人ひとりが自分のペースで感じ、試し、広げていく過程を支えることを目的として設定した。

2. 活動スケジュール

2歳児、0・1歳児のクラスに分けて活動を行う。

3. 探求活動の実践

《活動の内容》（活動のために準備した素材や道具、環境の設定）

かんなくす、プール、木端

《活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り》

0～2歳児のかんなくすプールでは、子どもがかんなくすに手を伸ばす様子を見ながら、保育者が「ふわふわだね」「いっぱいあるね」と声をかけると、子どもはかんなくすを握ったり、上から落としてみたりする姿を見せていた。かんなくすが舞い上がると、「わあ」と声を出したり、保育者の顔を見て笑ったりする姿もあり、保育者は「びっくりしたね」「楽しいね」と気持ちに寄り添いながら関わった。

木端遊びでは、木端を並べる子どもに「ここに置いたの?」「もう一つ並べてみる?」と声をかけると、じっと考えながら重ねたり、場所を変えたりする姿が見られた。夏にも同じ素材に触れていたことから、保育者が「前にもやったね」「そのときはどうだったかな」と語りかけると、言葉や仕草、表情で応えようとする姿が見られ、再体験が子どもの中でつながっている様子を感じられた。

2歳児が木端同士を打ち合わせた際に出る『コンコン』『カタカタ』という音に気づき、何度も叩いて音を確認めたり、保育者の顔を見て反応を確認めたりする姿も見られた。保育者が「いい音がしたね」「もう一回やってみる?」と共感した。



4. 振り返り

《振り返りにより得た保育者の気づき》

2歳児が木端の音に気づき、繰り返し確かめる姿からは、素材の「音」や「響き」も大切な探索対象であることを改めて実感した。これまで形や積む・並べる遊びに目が向きがちであったが、叩く強さや場所によって音が変わることにより子どもが主体的に気づいていく様子を見て、保育者の関わり方次第で遊びの広がりが大きく変わることを感じた。また、夏と冬の再体験を通して、同じ素材であっても子どもの反応や遊び方が変化していることに気づいた。成長や経験の積み重ねにより、以前は感触を楽しむことが中心だった子どもが、今回は音や並べ方、友だちの様子にまで関心を向けていた。こうした変化を丁寧に受け止め、言葉にして返すことが、子どもの探究心を支える重要な関わりであると再認識した。今後も、子どもの小さな気づきや行動の変化を見逃さず、保育者自身が学び続ける姿勢を大切にしながら、現場での何気ない対話を積み重ね、子どもの『わくわく』を支える保育を続けていきたい。